

令和6年度
マイスター・ハイスクール事業
成果報告書



学校法人 一川学園

清和学園高等学校

目 次

1. はじめに	1
2. マイスター・ハイスクール実施概要図	2
3. マイスター・ハイスクール実施概要図	3
4. 事業の実施期間・管理機関・指定校名・事業名・事業概要	4～5
5. 学校設定教科・科目・意思決定機関の体制・事業推進機関の体制	5
6. 管理機関の取組・支援実績	6～10
7. 事業の実績	10～42
①前年度事業の継続とブラッシュアップ	11～41
②学科横断的なものづくりの実践	41
③企業連携組織の構築	41～42
④事業理念の普及と展開	42
8. 目標の進捗状況, 成果, 評価	42
9. 次年度以降の課題と改善点	42～44
10. プロジェクトのスキルの伸長の自己評価	44～45
11. プロジェクトの行動の振り返り	45～46
12. 各授業等アンケート結果について	46～67

1、はじめに

埼玉県ほぼ中央に位置する越生町は、人口約1万1千人、東京にも50キロメートル圏内、外秩父山地と関東平野の接点にあり、町のほぼ中央を越辺川が流れる緑豊かな環境にある町です。

越生町には、関東三大梅林の一つに数えられている越生梅林を始め、日本観光百選の黒山三滝、関東一の五大尊つつじ公園、太田道灌ゆかりの山吹の里歴史公園などもあり、花の里、また平成28年4月29日に全国初のハイキングのまちを宣言しています。梅とゆずの収穫量と出荷量は県内第1位で、埼玉県第1位の大クスの木、平安時代の仏像の数も県で1位と、旧跡や神社仏閣なども多く、歴史もあり近年では、食の安全や健康志向の高まりから越生の梅・ゆず製品を求める方やハイキングを満喫するため、首都近郊から訪れる方が年々増えては来ています。

そんな風光明媚な環境の中に、清和学園高等学校があります。昭和37年に「越生自動車学校整備科」として、自動車整備士の養成学校として開学。平成16年4月通信制高校では全国初となる国家資格（3級自動車整備士）の取得可能な自動車科、平成29年4月・調理師の国家資格（調理師）が取得可能な調理科、学び直しや資格取得が可能な普通科（アドバンスコース）・（ベーシックコース）の三学科2コース制を設置。建学の精神でもある「行うことによって学ぶ」を具現化する新しいスタイルの通信制高校であり、令和5年度からマイスター・ハイスクール事業の指定校となり今年度2年目となります。



レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX（Sustainability Transformation）人材養成モデルの構築

事業ビジョン

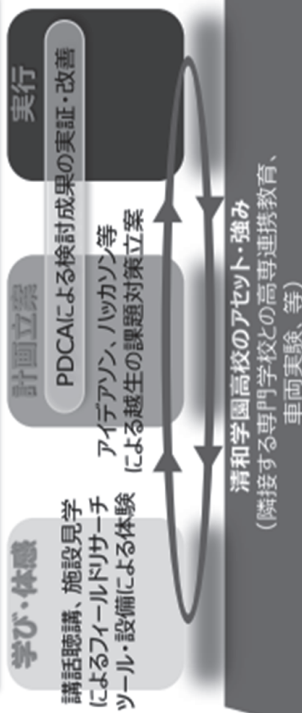
越生の町と越生の産業のサステイナブルとレジリエントを実現するニューノーマル時代のSX人材育成モデルの構築

清和学園高等学校は、通信制高校でありながら全国唯一の工業・家庭の国家資格が取得可能な新たなスタイルの高等学校である。越生町に受け継がれてきた自然豊かな環境や地域産業を活かし、生徒一人ひとりが、越生町民や地域関係者と協働して、地域・社会課題の発見やICT・デジタル技術等最新技術による解決に自ら取り組むことのできる力を育み、アフターコロナ・ウィズコロナ時代における越生町における持続的な成長を図っていく人材を育成する。

身につけさせたい資質・能力

越生町の課題を解決する
デジタルリテラシーの向上デジタルリテラシーを形にする
コンセプトアualスキルの向上越生町の未来の産業を支える
アントレプレナーシップの向上

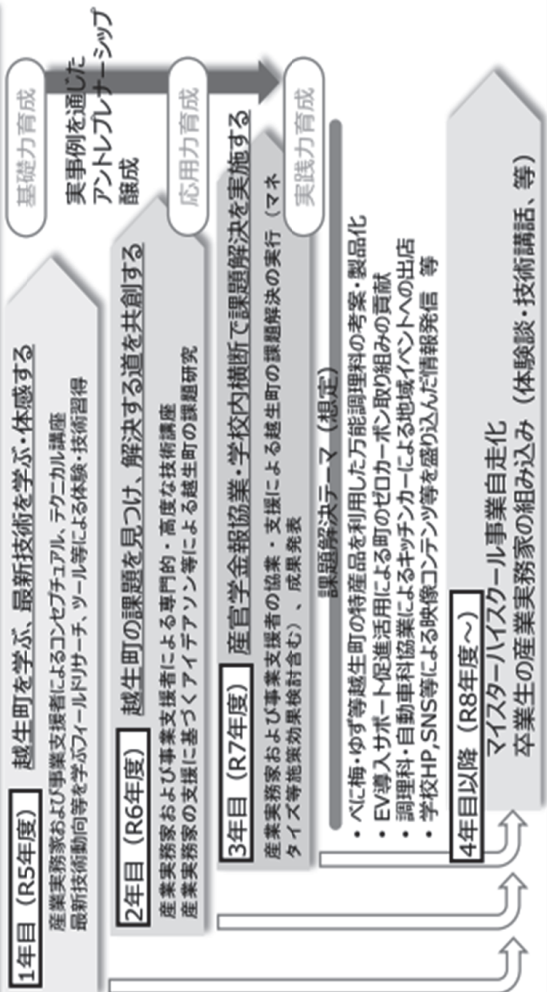
体感・探求し、自ら考え自ら行動をおこせる学習活動



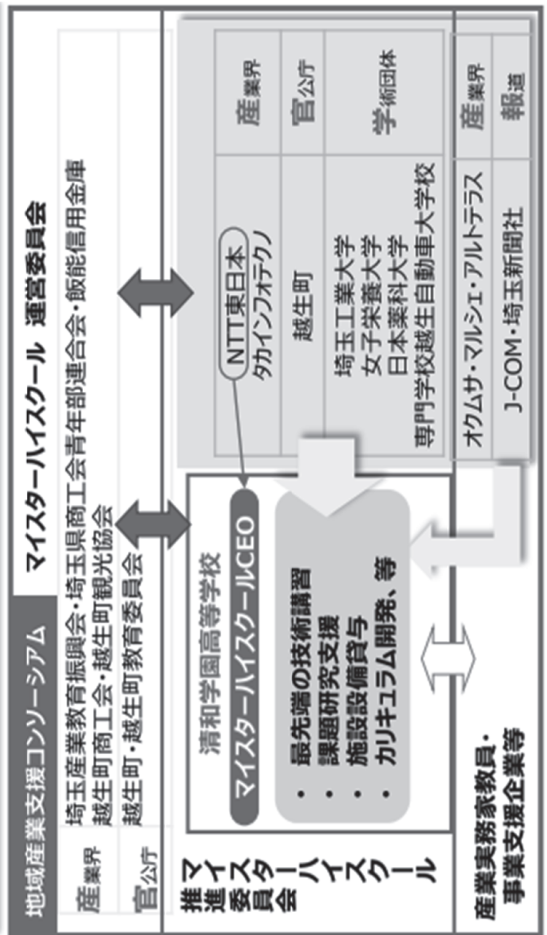
資質・能力向上を図る環境を提供・協力

産業界	ICT技術を利用した地方創生、最新デジタル技術動向 ・Connected Car等、車産業動向・食糧経営 等
官公庁	越生町の定置・定性的な課題、背景知識 ・特産物、施設等越生町の強み 等
学術団体	・Connected Car技術動向 ・栄養学、漢方学と食の研究動向 等
金融	・起業、ビジネスプラン立案手法 ・マネタイズ、アイデア発想手法 等
報道	・情報発信、プレゼンテーション手法 等

清和学園高等学校マイスターハイスクール 年度毎のカリキュラム案



清和学園高等学校マイスターハイスクール実施体制



レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX（Sustainability Transformation）人材養成モデルの構築

清和学園高等学校

自動車科

Connected Car最新技術

授業対象学科
■ 自動車科

- 自動運転の仕組みの講義、学習
 - 実証フィールドによる実験参画
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- 日産プリンス埼玉販売(株)
 - 埼玉工業大学
 - 専門学校越生自動車大学校
 - NTT東日本 (e-CityLabo)

車産業動向

授業対象学科
■ 自動車科

- 最新FA技術のフィールド見学
 - 実地体験
 - 電気自動車技術動向
 - 次世代自動車整備技術動向
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- 日産プリンス埼玉販売(株)
 - 埼玉工業大学
 - 専門学校越生自動車大学校

栄養学・漢方学と食の研究

授業対象学科
■ 調理科

- 越生名産のべに梅・ゆずの栄養学・漢方学知見から見た講義
 - 各学術的知見に基づく新たな名産加工品の開発、成分分析
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- 女子栄養大学
 - 日本薬科大学

食堂経営

授業対象学科
■ 調理科

- 生産・販売拠点道の駅を活用した食堂経営の実地体験
 - 名産加工品の販売、パッケージングの実地体験
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- オクムサ・マルシェ
 - 越生町商工会・観光協会

調理科

ICTを利用した地域創生手法

授業対象学科
■ 自動車科 ■ 調理科

- 実証フィールドによる実験参画（ドローン・農業ICT・除去ロボットによる雑草駆除、等）
 - 地域特産とテクノロジーの掛け合わせをするアイデアの創出（アイデアソン、等）
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- NTT東日本 (e-CityLabo, eXeField AKIBA)
 - (株)タカインフォテック
 - (株)アルトデラス

最新デジタル技術

授業対象学科
■ 自動車科 ■ 調理科

- XR技術、ゲーミングプログラムを活用した地域の魅力発信につながる実験参画
 - クラウド等の仮想技術からPCのキッキングなどの物理的なコンピュータインテグレーションの講義、学習、体験
 - 各種ツールを利用したサイバーセキュリティの知識学習、体験
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- NTT東日本(株)
 - (株)タカインフォテック
 - (株)アルトデラス

コンセプチュアルスキル等

授業対象学科
■ 自動車科 ■ 調理科

- 越生町の資源を活用したビジネスプラン策定講義、学習
 - 資金調達等のファイナンス知識の講義、学習
 - マルチメディアを駆使したホームページ、SNS等の知識学習、体験
- 【産業実務家教員・事業支援者】
- 越生町
 - 飯能信用金庫
 - J-COM・埼玉新聞社

4、事業の実施期間

令和6年6月（契約締結日）～ 7年3月31日

管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	おごせまち
管理機関名	越生町
代表者職名	町長
代表者氏名	新井 康之

②管理機関（産業界）※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	ひがしにほんでんしんでんわかぶしきがいしゃさいたまじぎょう
管理機関名	ぶさいたまにししてん 東日本電信電話会社埼玉事業部埼玉西支店
代表者職名	支店長
代表者氏名	山崎 大二郎

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	がっこうほうじんいちかわがくえん
管理機関名	学校法人一川学園
代表者職名	理事長
代表者氏名	一川 高一

指定校名

学校名 清和学園高等学校

学校長名 一川 高一

事業名

「レジリエントな町と産業を支えるニューノーマル時代のSX人材養成モデルの構築」

事業概要

近年 ICT(情報通信技術)や IoT(モノのインターネット)が急速に発展・普及し産業構造が目まぐるしく変化する中、本校は、通信制高校でありながら、全国唯一の国家資格が取得可能な学校であり、工業(自動車科)・家庭(調理科)を有する専門高校に匹敵する新しいスタイルの高等学校である。

越生町は、埼玉県一の「梅・ゆず」の生産地であるが、この地域産業に関する持続性・継続性が大きな課題の一つである。①梅・ゆず農家の高年齢化・後継者不足、②梅・ゆず販売単価の低減化。豊かな自然環境を背景に観光振興策の一つとして全国初の「ハイキングの町」宣言をしているが、成果指数は目標値に届いていない。これらの課題に対し、観光資源の有効活用と農産物の元々持っている価値を更に高め、生産性の価値を上げる食品加工(2次産業)流通・販売(三次産業)に取り組み、栽培から収穫、加工、流通・販売といった「梅・ゆず」農家の一連のビジネスバリューチェーンの作業毎に、生徒ならではの新鮮な目線でのアイデアを励起し盛り込み、解決に向けての取り組み活動を推進する。

また、6 次産業化を目指した取り組み活動を通して、町が掲げる産業振興と観光の町の発信の中で、越生ブランド振興事業の創設や地場産業の振興・町の PR の推進を念頭に、生徒が主体的に自らの視点で、町の課題を見つけ解決する道を共創し、Connected car としてのキッチンカーの運用や環境に配慮した「CASE」最新技術等の研究を進め、学校魅力化や SX 人材育成モデルの構築 Sustainability Transformation を掲げて、持続可能な地域活性化に向けた事業を産業界と地域の関係者とが協働し、解決を図ることができる次世代マイスターの育成を行う。

学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

5、・学校設定教科・科目 ☒ 開設している ・ ☐ 開設していない
 ・教育課程の特例の活用 ☒ 活用している ・ ☒ 活用していない

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
大野 松茂	埼玉県産業教育振興会・顧問
新井 康之	越生町・町長
島野 博行	越生町観光協会・会長
長島 祥二郎	越生町商工会・会長
山本 信一	飯能信用金庫越生支店・支店長
市川 剛士	埼玉県商工会青年部連合会・元会長
一川 高一	清和学園高等学校理事長・校長

事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
村上 達則	事業推進委員長・マイスター・ハイスクール CEO
山崎 大二郎	東日本電信電話株式会社埼玉西支店・支店長
阿部 将永	株式会社タカインフォテクノ副社長
横田 恵嗣	産業観光課越生町・課長
松浦 俊太郎	越生町教育委員会学務課・課長
磯田 厚子	女子栄養大学 名誉教授
大室 智史	日本薬科大学・講師
一川 高一	清和学園高等学校・理事長・校長

6、 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実 施 日 程											
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
運営委員会		○					○					○
事業推進委員会			○								○	
技能コンクール審査会			○									
チョコレート審査会							○					
越生町を知る審査会									○			

(2) 実績の説明

①令和6年5月15日(水)

・第1回運営委員会開催

○令和5年度の振り返り

○事業ビジョンで育成を目指す人間像

○SX 人材に必要な能力・スキル

○令和6年度のマイスター・ハイスクール事業計画案について

○授業概要

○授業と能力・スキルのマトリックス

○校内実施体制

○現時点での課題

意見交換の中では、越生町を知り、生徒たちが自ら課題を見つけ主体的な学びになるような取り組みを期待したい。キッチンカーを使用した調理メニューの開発等はどうなっているかなど積極的な意見交換が行われた。



第1回運営委員会

②令和6年6月20日(木)

・第1回事業推進委員会開催

○令和5年度の振り返り

○事業ビジョンで育成を目指す人間像

○SX 人材に必要な能力・スキル

○令和6年度のマイスター・ハイスクール事業計画案について

○授業概要

○授業と能力・スキルのマトリックス

○校内実施体制

○現時点での課題について



第1回事業推進委員会

- ・マイスターの時間確保

昨年度よりは改善したが学年・学科を超える場合はその都度調整が必要

- ・評価指標の具体化

養成する能力・スキルの具体的な評価方法は今後の委員会で議論

- ・調理科チョコレートPJの製造

・昨年度製造を担当していた専門学校が今年度は対応が困難となり、代替策を検討中

- ・自動車科の取り組める地域課題の設定

交通問題・クリーンエネルギー等を候補に今年度中に具体化が必須

③技能コンクール審査会

第1回事業推進委員会終了後、事業推進委員のメンバーの皆様に審査員をお願いし今年度初となる3年生自動車科による技能コンクールを開催する。

（目 的）これまでの授業で身に付けた整備技術の発表の場を設けることで、生徒たちの成長を促し、専門技術・知識の習得を図ることを目標とする。またPDCAサイクルの重要性を理解させるとともに、生徒募集に結び付ける。

競技内容 ヴィッツを使用してジャッキアップ・ダウンからのタイヤローテーション事業推進委員の先生方からは、生徒一人ひとりが真剣なまなざしで、輝いていた等の感想があった。

このコンクールの内容は、今年度の第1回中学生が参加するオープンキャンパスで、全員参加型の体験として実施した。

④令和6年10月16日（水）

- ・第2回運営委員会開催

○上期の振り返り

○上期の総括

○下期取り組み予定

○意見交換

■成果・良かった点

- ・策定した計画が順調に進捗

○現時点で80%以上が実施済みもしくは日程調整まで完了

○調理科では前倒しで、プロジェクトを実施（学内ランチ販売・チョコレートPJ）

- ・校内取り組み体制の充実

○学校内定例会が確立、各教員から自発的なアイデアや要望が出て議論する環境が構築できた。

- ・普通科の参画

○「越生町を学ぶ」授業、学内イベント、チョコレートPJに普通科の生徒も巻き込んだ活動が展開できた。

■課題・改善

- ・特別授業から通常授業への転換

○教員の意識、カリキュラム上の扱いの両面からMHSの取り組みを特別イベントから通常授業に転換する必要がある。

- ・必要時間数の確保

○確保できた時間は実習や体験が優先しており、生徒が自ら考える主体的な時間が確保できていない。

- ・生徒・教員のデジタルリテラシーの向上

○授業でのICT利活用が、まだまだ不十分であり、利用時に手間取る状況が発生

⑤ 10月30日 (水)

・チョコレートプロジェクトの審査会に運営委員・推進委員が審査員として参加2年目となるチョコレートプロジェクトでは、身に付ける力として、「社会貢献力」「提案力」「実行力」の3つを掲げて取り組んだ。



チョコレートPJプレゼンの様子



審査員試食

⑥ 12月11日 (水)

・「越生町を知る」の発表会に運営委員・推進委員が審査員として参加
事業ビジョンで養成を目指す人材像として、全学科の1年生が越生町とサステナビリティを理解し、デジタルリテラシー・コンセプチュアルスキル・アントレプレナーシップを学びこれらを活用した価値創造活動を行うことで、越生町と産業の持続的な成長を実現・推進する人材を目指した取り組みとして実施。



越生町の場所クイズ



越生町職員の授業

⑦ 2月28日 (金)

・事業推進委員会開催
○文部科学省成果発表会の報告と講評について
○次年度の取り組み活動と方針について
○その他
意見交換

成果報告会の報告と講評を聞いたうえで、各委員の多くの方から昨年度に比べて、計画や事業内容も大きく進歩しているという意見をいただいた。そのうえで、課題にもなっているアントレプレナーシップの醸成やルーブリックを含めた自己評価の基準、自走に向けた取り組みについて以下のような活発な意見交換があった。

- ・アントレプレナーシップや地域解決が低い現状に対して、コンテンツを与えるだけでは、受け手が自ら解決しようという課題意識を持ちにくいという問題があるのではないか。
- ・ルーブリックについても教員も生徒と同じ評価基準を使うべきだと思う。評価軸の意識にズレが生じ

ることがあるために、生徒との意識の差を調整する必要がある。また学年ごとにルーブリックの評価レベルの基準を調整することが望ましい。

- ・クイズを作成する過程で、調査や制作の中で、「なぜ？」という疑問を持たせることが重要であり、それによって学びが深まる。
- ・初めは、与えられた課題に取り組ませ、その後自分で解決する力を養うことの方が、効果的である。
- ・外部からのインプット継続的に受け入れる体制を整えることが重要であり、これにより、学びの幅が深まる。
- ・アントレプレナーシップや地域課題解決においては、どこにゴールを設定するかが重要であり、これにより学びの幅が広がる。
- ・キープポイントは教師であり、教師自身がどのように授業を変革していくかが重要である。最終的には、カリキュラムを変更することで、他校との差別化が図れる。
- ・潜在的にある課題をどのように引き出すかが重要であり、今から学び、身に付けておくことが社会に出た際にゆとりになる。
- ・デジタルリテラシーについて、ソサエティ 5.0 などの社会的トレンドやキーワードを受け手が理解できるようなみずから伝えることが重要である。
- ・座学を繰り返すのではなく、実際の活動を通じて、アントレプレナーシップに繋がる発見を促すことが大切。

事業終了後の自走については

- ・コンソーシアムを構築していく場合でも、その主体は清和学園高校であるべきで、外部との連携を進める前に、清和学園内に MHS 体制をしっかりと整備、充実させることが、重要である。
- ・連携組織体で町中心としているのは、現在の運営委員会に近いものになると思われるが、青年部や地域おこし協力隊等若く積極的なメンバーも視野に入れるべきではないか。

⑧ 3月14日（金）

- ・運営委員会開催

○文部科学省成果発表会の報告と講評について

○次年度の取り組み活動と方針について

○その他

特に次年度の取り組み活動と方針を村上 CEO から事業推進委員会での自走に向けた取り組みの内容を紹介し、自走に向けてコンソーシアムを構築していく場合でも、その主体は清和学園高校であるべきで、外部との連携を進める前に、清和学園内に MHS 体制をしっかりと整備、充実させることが、重要である。

連携組織体で町中心としているのは、現在の運営委員会に近いものになると思われるが、青年部や地域おこし協力隊等若く積極的なメンバーも視野に入れるべきではないか。

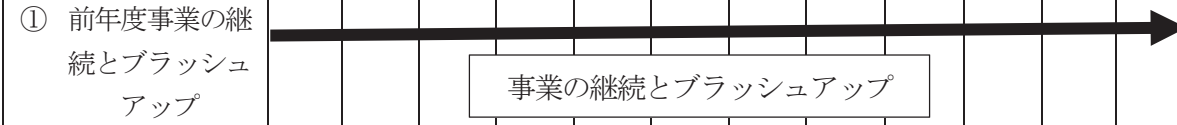
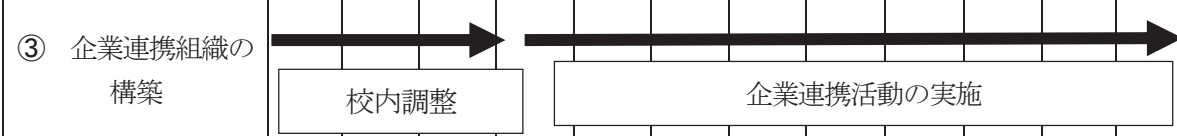
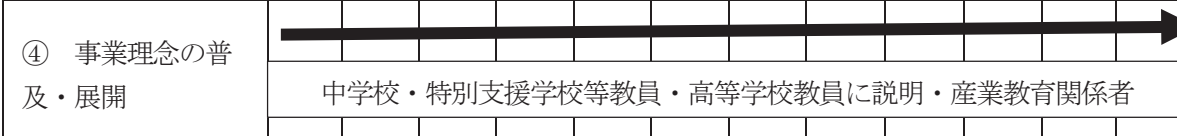
その後各運営委員から今年度の取り組み活動の振り返りや自走に向けた意見交換が行われた。

- ・高校生・大学生が町内企業に卒業後就職して町作りのリーダーになってもらいたいというのは越生町の願いでもある。企業の受け皿となってもらえるような活動を展開してほしい。できるだけ、越生町の企業に就職してもらえるような取り組みが重要である。
- ・現在の MHS で取り組んでいる自動運転の内容はとても良いと思う。越生町の現在の交通問題を考えた時観光バスのルートは単純な路線なので、自動運転バス等の導入ができないか。
埼玉工業大学の渡部先生と繋げることができる。深谷市はすでに自動運転を開始しているが県内の町村にはまだない。大学・高校・越生町という組織の枠の中で取り組めないか。

- ・越生町は交通政策を再検討していく時期に来ている。免許返納後の方策、タクシー券の費用もかかり過ぎていて。自動運転技術で埼玉工業大学との連携ができればとてもありがたい。少しずつではあるが、研究しながら前に進んでいきたい。教習所での実証実験をやっているのであれば機会があれば私を是非呼んで欲しい。
- ・1年目より2年目と日に日に内容が充実してきているのが良く分かる。今までは学校内での成果が多かったが、町・地域と連携した効果や生徒が提唱しているようなテーマパークは決して非現実的なことではないと思う。
町や地域の課題を発見してやりたいことを描くことはとても大切なことである。目的を描いていかないと自走に向けた行動が動いていかない。高校生の発想が地域を動かすこともある。
3年終わって完成で終了はもったいない。積極的にできることを私たちも協力したい。
- ・今町が考えている「越生ファンクラブ」と本校がコラボできないか。
「越生ファンクラブ」はまだ構想段階で具体的には進んでいない。関係人口を増やしたい。ファンクラブ大会を開き、最終的には定住を促し、人口減少を止めたい。次世代のネクストリーダーズプロジェクトに高校生も参画していただければありがたい。私の家にも梅の手伝いに来てくれる人がいる梅取りを楽しみにしてくれている。そういう場所を広めていきたい。
梅の駅の2階を一年中使用できるような取り組み例えば高校生レストランや書店とのコラボ、店の後ろに蔵が3つある。蔵の喫茶をやったらどうか若い力を活用することが大切である。
- ・MHS 事業をどれだけ町の人には認知しているのか。SNS やインスタ等の発信はしていると思うが、発信の仕方を今一步工夫する必要もあるのではないかな。
その上で、今まで出てきた取り組みが町全体に広がり、盛り上がってくればと思う。

7、事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 前年度事業の継続とブラッシュアップ												
② 学科横断的なモノづくりの実践												
③ 企業連携組織の構築												
④ 事業理念の普及・展開												

①前年度事業の継続とブラッシュアップ

校内連携体制を全教職員が共有できる組織表を新たに作成し、昨年度の管理者朝会組織（校長・CEO・教頭・教育部長で朝礼終了後月曜日～金曜日で実施）とMHS委員会の中に月曜日自動車科と調理科に係わる全職員が隔週で定期的に行うことができる自動車部会と調理科部会を設定し、各部会をまとめるMHS担当教員を1名ずつ新たに配置した組織に変更し、2年目の事業に取り組んだ。

また授業と能力・スキルのマトリックスを作成し、それぞれの授業やプロジェクトにしっかりと位置付けた取り組み活動を実施した。

授業名/PJ名	自動車科			調理科			越生町理解	サステナビリティ理解	デジタルリテラシー	コンセプトスキル	アントレプレナーシップ
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生					
越生町を学ぶ（各科・成果発表）	○			○			○	○	○	○	○
SDGsを学ぶ	○			○			○	○		○	○
ICT基礎/調理手順フロー	○			○					○	○	○
VR溶接	○								○		
EVベンチャーから学ぶ	○							○	○	○	○
ICTによる地域課題解決	○						○	○	○	○	○
CASE+α	○	○	○					○	○	○	○
最新整備技術入門		○							○		○
環境とクルマについて学ぶ		○					○	○	○	○	○
技能コンクール			○						○	○	○
特産品授業				○	○	○	○	○			
クリスマスコンテスト				○	○				○	○	○
料理写真撮影				○					○	○	○

授業名/PJ 名	自動車科			調理科			越生町理解	サステナビリティ理解	デジタルリテラシー	コンセプチュアルスキル	アントレプレナーシップ
	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生					
飲食店オープン講座				○					○	○	○
薬膳を学ぶ				○			○	○			○
チョコレートPJ					○		○	○	○	○	○
給食業務を学ぶ（大量調理）						○				○	○
特産品ランチ学内販売						○	○		○	○	○
立食ビュッフェを学ぶ						○				○	○
特産品レシピ立食ビュッフェ（卒業作品展）						○	○	○	○	○	○

■学科共通的な取り組み活動

主に1年生を対象に実施

- ・「越生町」についての学びやサステナビリティへの理解、ICTに関する取り組みを中心に実施した。

【授業名・プロジェクト名】 「越生町を学ぶ」（概論）

6月19日（水）1年生全学科「LHR・総合的な探究の時間で実施」

【授業の概要・狙い】

越生町外から通学する生徒が多いことから、越生町への理解を深める狙いで実施。

- ・越生町職員や関係者から越生町についての話を聞き、生徒が調べ学習を通して越生町を学び、その結果をまとめて12月に発表会を実施して、運営委員である町長をはじめ・産業実務家教員や越生町の関係者の前で発表する。
- ・発表は学科毎に自動車科・クイズゲーム、調理科・ポスター制作、普通科・動画制作等越生町を知らない人に越生町を知ってもらうことを目的とした内容とする。
- ・クイズゲームは越生町に関するクイズを考えてICT基礎で実施するクイズゲームを応用して制作。
- ・ポスターは越生町の特産品について学び、その特産品・製品の販売促進のためのポスターを制作。
- ・動画は、ゆずの里ケーブルテレビの社員の指導を受けながら制作して、完成した作品は、Youtube形にして発表会以外学校のホームページやInstagramまたNature 甲子園にも応募させ、生徒に地域の魅力を考える機会を提供する。



クイズ越生町の踏切の数は？



おごせ君と生徒の動画作成

【成 果】

- ・授業後のアンケートでは、町の活動やPR活動への好意的な意見が多く、特に正月の七福神巡りや動画PRが評価された。
- ・タイムスリップ形式で偉人と出会うというPR動画制作や越生町クイズ作成などの具体的な提案も寄せられ、地域理解を深める活動の可能性が示された。

【能力・スキル】

越生町理解

【連携企業】 越生町

【授業名・プロジェクト名】 「SDGs を学ぶ」

6月26日（水）1年生全学科「LHR・総合的な探究の時間で実施」

【授業の概要・狙い】

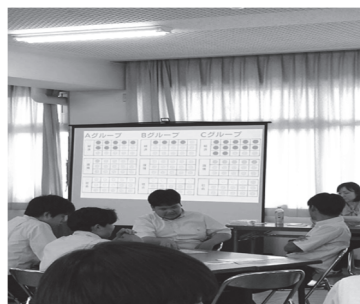
- ・SX人材育成の基礎として1年生全学科の参加を通じてサステナビリティの理解を深めると共に、学科間の交流を促進することを目的に実施。
- ・授業では「The Action! ～SDGs カードゲーム～」(プロジェクトデザイン社)を活用して学科混成のチームで活動を展開する。生徒たちはゲームを通じてSDGsの達成に向けた行動を考え、日常生活や学校生活で実践可能なアイデアを模索させる。さらに、越生町の地域課題をテーマに、グループごとに解決策を考案し、発表を行うことで課題解決力を養う。



SDGs のゲームのルール学習



越生町で出来る SDGs の取り組みを議論



ゲームの振り返り



埼玉新聞記事 2024 年 7 月 7 日



カードゲームの様子

【成 果】

- ・生徒たちは、環境保護や資源の節約、地域課題の解決に向けた具体的なアイデアを数多く提案することができた。特に越生町における人口減少や観光促進のアイデアでは、テーマパークや SNS 活用といった斬新な意見も出た。
- ・授業を通じて SDGs の意義を理解するとともに、他学科生徒との協力の重要性を実感する場となった。

【能力・スキル】

越生町理解・サステナビリティ理解・コンセプチュアルスキル・アントレプレナーシップ

【連携企業】NTT 東日本 テルウェル東日本

【授業名・プロジェクト名】「越生町を学ぶ」(越生町クイズ)

1 年自動車科 (10 月～12 月) 「自動車工学・LHR・自動車概論で実施」

【授業の概要・狙い】

- ・ICT の基礎知識と論理的思考力を養いながら、地域理解を深めることを目的に実施する。
- ・ICT 基礎として生徒は Chromebook の Scratch で 3 択クイズのプログラミングを行い仕組みについて学ばせる。
- ・クイズ制作では越生町をテーマにインターネット検索して Canva のオンラインホワイトボードでブレストを実施、クイズの内容を発案。交通や自動車の知識を盛り込んだ問題も作成させる。



【成 果】

- ・生徒は ICT 機器の基礎操作や変数処理を通じて ICT スキルの向上とクイズ制作の過程で論理的思考力や情報整理力を身に付けることができた。
- ・越生町クイズ制作を通じて地域理解を深め、主体的に地域資源を活用する意識を高めることができた。さらに、自動車や交通関連の知識をクイズに盛り込むことで、自動車科らしい視点で学びを発展させることができた。

【能力・スキル】

越生町理解・サステナビリティ理解・デジタルリテラシー・コンセプチュアルスキル

アントレプレナーシップ

【連携企業】株式会社アルトテラス・株式会社タカインフォテクノ

【授業名・プロジェクト名】「越生町を学ぶ」(特産品ポスター)

1 年調理科 (10 月～12 月) 「調理理論・LHR・家庭基礎で実施」

【授業の概要・狙い】

- ・越生町の 6 次産業化商品を題材に、地元特産品の魅力を発信するポスターを制作させる。
- ・生徒たちは実際に商品を試食し、魅力を実感した上で題材を選定。商品の特長を理解し、効果的な訴求方法を考えることを目的に、独自のキャッチコピーをグループでブレインストーミングして考

案させる。

- ・Canva を用いて制作したポスターは、道の駅での地元の梅まつり期間中に展示させ、地域の商品認知拡大と販売促進に貢献させる。この活動を通じて、生徒たちは地元の産業や商品に対する理解を深めるとともに、クリエイティブな発信力を育ませる。



【成果】ポスター作品金賞

- ・生徒たちは商品の特長を深く理解し、効果的な訴求力を伴うキャッチコピーを考案する手がかりとなる力を身に付けることができた。
- ・さらに、ポスター制作を通じて、地元特産品への親近感が醸成されただけでなく、地域活性化に寄与する喜びを体感することができた。これにより、地域社会への関心を高める学びを得ることができた。生徒の作品は、越生梅まつりの期間に道の駅に展示。

【能力・スキル】

- ・越生町理解・サステナビリティ理解・デジタルリテラシー・コンセプチュアルスキル
- ・アントレプレナーシップ

【連携企業】株式会社タカインフォテクノ・越生町特産物加工研究所

【授業名・プロジェクト名】「越生町を学ぶ」（動画紹介）

1年普通科(7月～11月) 「・LHR・総合的な探究の時間・美術で実施」

【授業の概要・狙い】

- ・越生町の自然や歴史を他人に紹介するというゴールを設定し、「教えるために自ら学ぶ」という学習プロセスを作ることを目的とした授業を実施。
- ・地元のゆずの里ケーブルテレビと連携し、第2回ネイチャー甲子園への応募と成果発表会を目標として、グループごとに動画制作に取り組む。
- ・生徒は越生町の自然や歴史について探究学習を行い、その成果を基にシナリオを作成、ケーブルテレビの社員からカット割りや編集についてアドバイスを受け、動画を完成させる。



普通科おごせ君動画制作



普通科越生町の歴史紹介動画制作

【成 果】

- ・「教えるために学ぶ」という能動的な学びを実現することができた。
- ・生徒は越生町の自然や歴史についての知識を深めると同時に、動画制作を通じて基本的な動画制作スキル、プレゼンテーション力や協働力を養うことができた。
- ・完成させた動画はネイチャー甲子園への応募を通じて外部の評価を受けるとともに、地域の魅力発信の役割を果たすことができた。

【能力・スキル】

越生町理解・サステナビリティ理解・デジタルリテラシー・コンセプチュアルスキル
アントレプレナーシップ

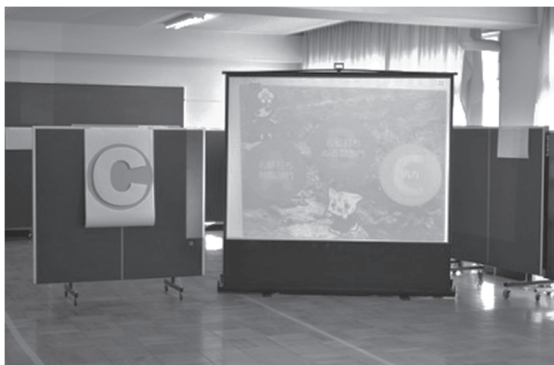
【連携企業】 ゆずの里ケーブルテレビ

【授業名・プロジェクト名】 「越生町を学ぶ」(成果発表会)

1年自動車科・調理科・普通科12月11日(水)「・LHR・自動工学・地理で実施」

【授業の概要・狙い】

- ・全学科の1年生が参加し、自動車科は「越生町クイズゲーム」、調理科は「特産品ポスター」、普通科は「越生町紹介動画」を制作し、2ヶ月間取り組んだ成果を発表させる。
- ・発表会には越生町長、職員、産業実務家教員を来賓として招き、クイズは全員で回答、ポスターはプレゼンと投票、動画は視聴という形式で進行させる。
- ・生徒全員が発表する形式とすることで他学科との交流と多面的な越生町理解の促進を狙う。
- ・また、制作を通じてデジタルリテラシーやコンセプチュアルスキル、アントレプレナーシップが養成されることを目指す。



自動車科越生町クイズ



調理科特産品ポスター制作

